



令和2年11月5日

坂戸市議会議長 様

会 派 名 民政クラブ  
代表者名 加藤 則夫



### 実 施 報 告 書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

### 記

1 期 日 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～3時30分

2 参加者氏名

加藤則夫	小川直志	石井 寛	森田文明
友田雅明			

3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 本会議場	坂戸市議会議員研修会 「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と 気象災害～」

4 概要

別添のとおり

# 令和二年度 議員研修会報告書

民政クラブ

1 日 時 令和2年10月15日(木) 午後1時30分～ 3時30分

2 研修内容

講演「最近の災害等とその対応～消防を取り巻く変化と気象災害～」

講師：一般社団法人全国市町村振興協会理事長・気象予報士 坂本森男 氏

3 参加者 5名(全員)

加藤 則夫、小川 直志、石井 寛、森田 文明、友田 雅明

4 研修会結果(参加者意見・感想)

◎ 昨年10月に襲来した台風第19号では、本市において幸いにして犠牲者は出さなかったものの、床上浸水243棟、床下浸水161棟、大規模半壊1棟、一部損壊13棟という甚大な浸水被害が発生し、本市に災害救助法と被災者生活再建支援法も適用された。

地球的規模での気候変動や温暖化の影響によって多発化・大規模化・激甚化している風水害、そして発生の切迫性が高まっている首都直下地震を始めとする大地震などの自然災害等から、どのように市民の生命・身体・財産を守る「災害に強いまちづくり」を市執行部とともに進めていくべきか、研修会を受講して改めて強く感じるとともに災害発生に備えての危機意識を深めることができた。

本市議会で策定している災害発生時の行動マニュアルを確認するとともに、地震や風水害等の発生に備え危機管理意識を持ちながら今後の議員活動に努めていきたい。

◎ 埼玉県を含む南関東地域においては、M6.7から7.2の直下地震が今後30年の間に70%の確率で発生すると予測されており、予測が発表されてからの経過年数を考慮するとその発生の可能性が切迫している。また、風水害も一昨年西日本豪雨、昨年本市に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風、そして本年7月豪雨など毎年発生している状況にある。

こうした中で研修会を受講して、改めて議員としての危機意識を持つとともに、日常の議員活動の中においても、危機意識を常に持ちながら災害発生時を想定しての目線で市内の河川や住宅密集地、狭隘道路や老朽ブロック塀等を確認して安全で安心して市民が生活できるまちづくりに向け活動したいと心を新たにした。

◎ 研修会を受講し自然災害に対する防災・減災対策の一層の推進の必要性を改めて認識した。厳しい財政状況下の中にあっても、出来ることから進めていくことが重要であり、まずは市民一人ひとりの防災意識の高揚に努める施策と、区・自治会や自主防災組織、消防団など既存の防災関係組織の活性化を促す施策を推進し、地域の防災力の強化を図る取組が必要ではないかと認識させられた。

同時に、水害ハザードマップに基づく危険個所の河川改修の促進や狭隘道路の解消といったハード面や災害時用備蓄品の整備充実に必要な予算措置について議会としてチェックしていくことの重要性も再認識したところである。